

高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 (①情01-09-4/5)

目 的

本研究は、前の中期計画5カ年中に開発した高精細デジタル画像形成の手法を用い、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画・漆絵などの美術品を対象とし、それぞれについて、(1)光に対する物性の検討、(2)光物性の画像化に関わる技術開発、(3)形成画像の汎用的な活用法(表示・出力)に関する条件整備を行い、広範な文化財研究を支援するために不可欠な研究画像を形成し、それらを応用・利用する方法を探ることを目的とする。

成 果

1. 他機関との共同研究：本研究は、先の中期計画において開発した画像形成技術を用いた画像の汎用的な活用・運用を行う方法・技法の研究に重点を置くものである。脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されており、文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法と言える。
 - (1) 成果報告書の刊行：平成17年度に行った平等院との鳳凰堂仏後壁の共同研究成果のうち、昨年度刊行の『平等院鳳凰堂調査資料目録—カラー画像編—』に続く『平等院鳳凰堂調査資料目録—近赤外線画像編—』(10.2)を刊行した。平成20年度に行った奈良国立博物館との共同研究の成果のうち、『春日権現験記絵披見台共同研究調査報告書』を刊行し(10.3)、奈良国立博物館紀要『鹿園雑集』18号に「法隆寺金堂所在釈迦三尊像および薬師如来像台座(下座板絵)の光学調査」についての成果報告を行った。
 - (2) 今年度の共同研究と作品：奈良国立博物館との共同研究の一環として「大徳寺五百羅漢図」の調査(09.5/11-17、9/12-19、10.3/1-6)を行うとともに、研究協議会を開催し(09.4/22、8/25-26、11/5)、一乗寺蔵天台高僧像の画像解析を行った。徳川美術館との共同研究の一環として「本多平八郎姿絵屏風」「歌舞伎図巻」の光学調査を行った(10.1/20-22)。宮内庁三の丸尚蔵館との共同研究の一環として「春日権現験記絵」の光学調査に関する研究協議会を行った(10.3/26)。
2. デジタルコンテンツの多目的利用の一環としての画像展示：長野県立信濃美術館『いのりのかたち—善光寺信仰展』における「東大寺俊乘堂阿弥陀如来像(快慶作)」高精細デジタル画像パネルの公開展示(10.4/4-5/31)、奈良国立博物館『聖地寧波』展における大徳寺蔵「五百羅漢図」高精細デジタル画像の公開展示(09.7/18-8/30)、奈良国立博物館『おん祭と春日信仰の美術』における春日大社蔵「春日権現験記絵披見台」高精細デジタル画像の公開展示(09.12/8-10.1/20)、彦根城博物館との共同研究として行った「彦根屏風」の光学調査結果のデジタルコンテンツ化。
3. 論文：早川泰弘、城野誠治「春日権現験記絵披見台の光学調査」pp.56-58、江村知子「春日権現験記絵披見台の表現について」pp.63-64、土屋貴裕『「春日権現験記絵披見台」と中世景物画 試論』pp.65-67、津田徹英「春日権現験記絵披見台の金具について」pp.68-69、以上『春日権現験記絵披見台調査報告書』(10.3)所収・岩田茂樹、稲本泰生、早川泰弘、城野誠治、鳥光美佳子、津田徹英、江村知子、浅井和春「調査報告 法隆寺金堂所在釈迦三尊像および薬師如来像台座(下座板絵)の光学調査」『鹿園雑集』18号(10.3)

研究組織

- 津田徹英、田中淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子(以上、企画情報部)